

大宅文庫ニュース

2021年7月 公益財団法人 大宅壮一文庫 発行 通期第86号

雑誌と生きる

記念対談

大宅文庫の未来
山根一眞 大宅映子

特別寄稿

大下英治

大宅壮一ノンフィクション賞受賞

石井妙子

Next
50
特集号

新潮、文春、現代、ポスト：
創刊号に見る「熱き時代」

追悼 立花隆さん 石橋俊澄

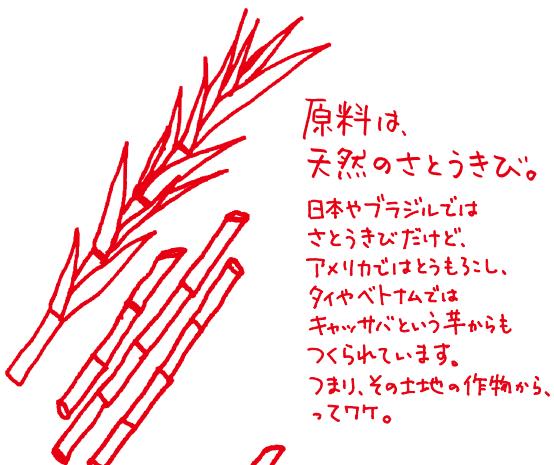
Eat Well, Live Well.



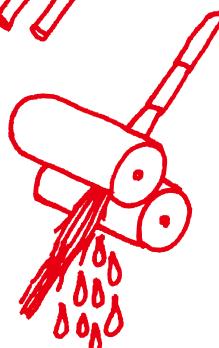
味の素。®
畑から、



「味の素」の詳しい情報は[こちら。](http://www.ajinomoto.co.jp/aji/)
www.ajinomoto.co.jp/aji/



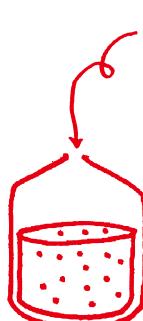
原料は、天然のさとうきび。
日本やブラジルではさとうきびだけ、アメリカではとうもろこし、タイやベトナムではキャッサバという草からもつくられています。
つまり、その土地の作物から、ってわけ。



さとうきびをしづる。
しづり終った茎は畑の肥料になりサイクル。「味の素」づくりは、自然にとことん優しい仕事でもあるのだ。



しづれた汁から糖蜜をとる。
ラム酒、こうちゅうカリザの酒もさとうきびの糖蜜からつくられています。
知っています?



糖蜜を発酵させます。
発酵により、糖分をグルタミン酸に変わりえます。
大豆から醤油ができるたり牛乳からチーズをつくるのも発酵。共通点は「おいしいものができる」かな。



グルタミン酸ナトリウムを粉状に。

うま味調味料「味の素」のできあがり!

うま味調味料「味の素」は、グルタミン酸ナトリウムを主成分につくられています。
うま味は、甘味、酸味、塩味、苦味となるべく基本味。
日本で、コンブのだしからうま味のもとがグルタミン酸であることが発見されました。
肉や魚、トマトなどの野菜にも含まれ、食べものおいしさを決めるたいせつな役割を果たしているんですよ。

うま味調味料「味の素」ができるまでについて、もう一度お話しします。

CONTENTS

本誌掲載の記事、写真などの無断複写
(コピー)、複製(転載)を禁じます

26 パトロネージュ・遺贈のご案内	23 八幡山日記	21 50周年「大宅本」	22 川端氏、大宅を「哀惜追慕」	18 追悼立花隆さん	14 創刊号に見る「熱き時代」	11 大宅壮一ノンフィクション賞受賞記念 「女帝 小池百合子」石井妙子	8 特別寄稿 大下英治 なにより人が好きだった	6 大宅魂 今も向き合い 鳥山輝 山根一眞 大宅映子	4 「Next50」記念対談
-------------------	----------	--------------	------------------	------------	-----------------	--	----------------------------	-------------------------------	----------------

Next50

大宅文庫がこれから新たな時代に生き続ける決意を示します

大宅文庫の半世紀

大宅文庫は今年5月17日、開館50周年を迎えました
セピア色の保存写真から半世紀の歩みをたどります



開館5年前の大宅夫妻。壮一66歳の誕生日、昌は還暦



索引が手書きのカードだった時代の1階
閲覧室。ケースから一枚ずつ引き出していた(1985年)



開館から4年後の
全景(1975年)

24・25号に
続く

大宅文庫「Next50」記念対談



大宅壮一文庫理事長

ノンフィクション作家

大 宅 映 子 山 根 一 真

——大宅文庫は開館50周年で一つの歴史の区切りになつた。お二人に腹蔵なくお話を聞いていただきたい。最初に50年を経た感想から。

大宅 私は創立記念日の感覚はない。子供の頃から父が本を集めているんだん

山根 書庫が大きくなつて。一番いい時から、ちょっと危なくなつて今日まで来た。

大宅 大宅先生は戦前から雑誌は集めていたのか。

大宅 私が覚えてているのは、ここ(八幡山)に家を建て住み始めてからの子供の頃。父が地方取材から帰つてくるとチック便(当時の鉄道駅留め小包み)が届く。一つぐらいお土産が入っていると思うじゃない。

——理事長自身は身内だ

山根 やはり索引です。僕たちが知りたいのはどこに何が書いてあるか。20代の頃、山根式のインデックス付き整理袋を考え出したりして、もがきながらデータ作りをした。その時気づいたんです。自分で何もかもため込む必要はない、大宅文庫があるじゃないかと。

それなら車で15分以内の所に住むしかない。もう一つ、文庫数が多くかつた中野図書館の中間にあつて選んだのが、今も住む西荻窪です。

——大宅

山根 テレビで理事長の話を聞いていると、評論家としての引き出しがものすごく多い。そういう環境で育つたからなんでしょうね。

——大宅

小3ぐらいから新聞

——大宅

人たちに会う。長嶋茂雄から山口百恵から、250人と会つた。夜、編集者から電話で、明日誰々の取材を言つてくる。まったく分からぬ人もいる。真夜中にあって大宅文庫に電話して資料を取らせてもらつた。これだけ資料があれば誰とでも安心して会える。大宅文庫がなくては僕自身の仕事はなり得なかつた。

雑誌と生きるそしてこれからも(笑)。

大宅文庫の未来

対談場所・大宅壮一文庫応接室(「雑草」時代の大宅壮一の書斎を復元)

でも、いつも本だけで：(笑)。いるうちに兄貴(長男・歩氏)が亡くなつて、どうにもならなくなつた。

——開館時、(初代理事長で母親の)昌夫人の苦労とかは。

大宅 銀行や企業を随分回つて資金を集めたらしく。明治期までさかのぼるとお手上げになつて、そうして大正史を書きたかった。その資料を集めていて、「炎は流れる」を書き始めた。

——データマンの仕事をした。毎週、その時代のトップの

大宅壮一文庫は今年5月17日、開館50周年を迎えた。雑誌の専門図書館として「雑誌の力」を社会に発信し続け、マスコミや出版界に大きく貢献した半世紀。一方で、2000年代に入つてからはインターネットの普及で利用者が減退し、厳しい運営を余儀なくされています。これまでの50年を見据えて、大宅文庫はどう使命を果たして行くべきか。

ノンフィクション作家で大宅文庫を長く見続けてきた山根一真氏と大宅映子理事長が縦横に語り合いました。(進行・鳥山輝大宅文庫専務理事)

「価値」説いた父の卓見 大宅

は3、4紙読んでいた。父から

は「同じ事件で

——大宅文庫のすごさとは?

大宅 親父に何かを教えられたという記憶はないが、文庫の価値という点で感じるのは。

——大宅文庫のあるじやないかと。

大宅 中にあるドロドロした人間模様とか、そんな話が大事白くない。「アサヒ芸能の

中にあるドロドロした人間

が多々ある。金ピカのハードカバーの本なんて何も面白くない。

——大宅文庫があるじやないかと。

大宅 「アサヒ芸能の

中にあるドロドロした人間



やまね・かずま 大宅文庫開館当初からの利用者。理化学研究所名誉相談役、福井県年縞(ねんこう)博物館特別館長など。大宅文庫評議員

現在の大宅文庫について語りたい。経営的には苦しい時代を迎えている。それを踏まえて存続させて行くにはどういう知恵が必要か。

山根 マネジメントの問題の前に、なぜ大宅文庫がこれらも必要なのか、その認識を共有しなければならない。マスクを含めて今の人たちは情報の95%をネットから得ている。しかし、ネットの情報はすぐに95%が消える。恐ろしいことで

ら晩までやっているテレビの情報も絶対に残っていないない。NHKのアーカイブのようなデータは次々に更新され、どのように更新されるにはどういう知恵が必要か。

私は和書をよく調べるが、500年経つても役に立っている。今から500年後、例えば今の政府がコロナでどんなだらしないことをやっていたかなどを調べようにも、これだけ朝か

らりニユーハルしました書いたことが、10年経つたと、全部消えてしまつたこともあつた。紙に書いたものは、まあ100年なら残る。その役割を雑誌は持つていて。日本の文化を後世に伝える、そのためにも大宅文庫の雑誌文化を残す。

その意味を社会に訴えてい

かなければならない。

大宅 若い人の話が合わ

ない。あまりにモノを知ら

「文化の砦」認識共有を 山根 情報と教養 土台が劣化 大宅

な過ぎる。常識を共有する

情報と教養の土台がやせ細つて、日本人はいつからこれほど劣化したのか。

山根 世界中がそうです。一般の人はアクセスできないだろう。情報は文化なのに、著作権が絡むと共有出来ない。全部消えていつ



おおや・えいこ 大宅壮一の3女。母親・昌さんの後を継いで2007年から大宅文庫理事長。評論家として各メディアで活躍中

とではない。誰が、どうレベルを敷くか、そこが大変だが。文庫に来てくれた多くの人が宝の山だと言ってくれる。



YouTubeで発信も 名称「千年文庫」に?

高まるマスコミの理解

大宅 ただし、お金がない。どう残していくか。

山根 国がお金を回していくのもいい。国会図書館の一部として文庫があつてもいい。怒つても仕方がない。文庫は社会に貢献している。

開館の時は昌夫人が苦労してお金を集めた。そういうことが大切だ。企業の社会貢献がこれだけ盛り上がっている。文化というメントを作つていかなればならない。そういう中

に大宅文庫の位置づけがあれば1億円なんてたいしたこに。日本の大宅文庫は、その後を見据えて「大宅壮一千年文庫に名前を変えてもいい。だから、ここはひとつ壮大

マスコミの理解も高まっている。記者発表をすると、かなりのスペースを割いて報道してくれる。すると確実に関心が高まり、寄付も増える。パトロネージュ事業も始めて多くの協力をいただいた。ただ、コロナ禍で最近はなかなか集ま難しくなっている。

山根 やり続けるしかな

い。日本の1000年後を見据えて「大宅壮一千年文庫に名前を変えてもいい。だから、ここはひとつ壮大

継続へ企業動かしたい

「昔を知る」仕掛け構築も

——できることは何でもや
ろうと思っている。



大宅 「大宅壮一文庫解体新書」も出版された。書かれた方たちと定期的に話し合うような場も持ちたい。

山根 「解体新書」は学者たちが書いた。学者や研究者も動き出した。その事を材料に企業も動かしたい。何と言つても文庫に来た人はその価値にみんな驚くんだから。全国47都道府県で大宅文庫巡回展を開

——結論は、大宅文庫はこれからも残すべきもの、残らなければならないという一点に尽きる。

大宅 ベストセラーになつた樹木希林さんの本（『一切なりゆき』）（23年参照）は、すべて文庫の資料が元になつた。

山根 仮にマネジメントが出来なくなつても、まずは続けるにはどうしたらいい

大宅 ベストセラーになつた樹木希林さんの本（『一切なりゆき』）（23年参照）は、すべて文庫の資料が元になつた。

——できることは何でもや
ろうと思っている。

かを優先して考えることが大事だ。希林さんの本を生み出す宝があるのでから。メディアでも文庫について少しでもかじった人とそうでない人とのアプローチしてくる仕方が違う。今やメディアでも文庫を知らない人が多い。そこに引きずられてはまずい。

大宅邸には雑草文庫がある。検索カードを使うとした青地さんから聞いたこの話が、私と大宅文庫を結びつけたのかもしれない。

大宅文庫には後ろ盾がない。収入が減り続けば、給料の支払いもおぼつかなくなる。収益が見込める新事業で穴埋めするしかないが、公益財団法人には本業から外れた新事業はご法度という制約がある。例えば、文庫の駐車場スペースを利用してカフェやコンビニを建てて稼ごうとしても、本業と関係ないとされて認めてももらえない。

大宅魂今も向き合ひ

昨年の大宅壮一没後50年に続
き、今年は開館50周年と、大宅文
庫は大きな節目が続いている。私
自身も大宅先生との縁が半世紀を
超えた。長い年月を経て、いま大
宅文庫に身を置く不肖の弟子は、
今後への新たな展望を探りつつ日
々感慨深く師と向き合っている。



大宅壮一文庫
専務理事
鳥山輝

ピンチの文庫 立て直し着手

2017年から職員・ス

私は、大学4年の時に大
宅壮一マスク塾7期生にな
った。入塾式は1970年1月で、大
宅塾長はさまざまな顔ぶれの塾生65人に
「君らをマスク候補者と

して扱う」と、これから始
まる未知の世界に魅力的な
言い方で誘つた。

草柳大蔵さんの講義は
「長時間取材にはチョコレ

ートとレモンを鞠に入れて
おくといい。独立したいな
タツフとともに立て直しを
始めた。大宅文庫の内情は、
収入の大半がマスク各社
の利用で支えられ、38年間
黒字が続いた。その後は出
版不況に加え、テレビ・新
聞もネット普及のあおりを

だつた。

「大宅邸には雑草文庫が
ある。検索カードを使うと
どんな記事でも書ける」と
語つたのは青地晨さん。当
時私は京大式カードで情報
整理していたので耳に残っ
ている。後日仲人をお願い
した青地さんから聞いたこ
とに引きずられてはまずい。

大宅邸には雑草文庫が
ある。検索カードを使うと
どんな記事でも書ける」と
語つたのは青地晨さん。当
時私は京大式カードで情報
整理していたので耳に残っ
ている。後日仲人をお願い
した青地さんから聞いたこ
とに引きずられてはまずい。

——整理していたので耳に残っ
ている。後日仲人をお願い
した青地さんから聞いたこ
とに引きずられてはまずい。

そこで、本業がらみの新
事業として「大宅壮一文庫
雑誌記事人物索引」の刊行
を始めインターネットで
寄付を募るクラウドファン
ディング（CF）にも挑ん
だ。大宅文庫のような台所
が苦しい公益事業は寄付が
推奨されているので「大宅
文庫を存続したい」と訴え
ると、大宅文庫の利用経験
者たちから寄付が相次ぎ、
わずか2日半で目標額をクリアした。（左面に続く）

CF2日半で 目標額を達成

そこで、本業がらみの新
事業として「大宅壮一文庫
雑誌記事人物索引」の刊行
を始めインターネットで
寄付を募るクラウドファン
ディング（CF）にも挑ん
だ。大宅文庫のようない台所
が苦しい公益事業は寄付が
推奨されているので「大宅
文庫を存続したい」と訴え
ると、大宅文庫の利用経験
者たちから寄付が相次ぎ、
わずか2日半で目標額をクリアした。（左面に続く）

大宅文庫パトロネージュ



大宅文庫が全国から寄付を募るために2019年に設立した会員形式の支援組織。パトロネージュは英語・仏語で「激励」「支援」などを意味する。代表には1967年に大宅壮一と対談した縁で、デヴィ・スカルノ夫人(写真)が就いた。

3年前から始めたのが「大宅文庫・パトロネージュ」である。大宅文庫に継続して支援していただこうと、毎年会費を支払う形の寄付制度を思いついた。これも反響を呼び、スタート元年の2019年度、そして昨年度も多くの方々や企業から寄付が寄せられた。

ただコロナ禍で寄付活動がしくくなっている。一日も早く事態が収束し、活動を再び本格化させたい。

3年前から始めたのが「大宅文庫・パトロネージュ」である。大宅文庫に継続して支援していただこうと、毎年会費を支払う形の寄付制度を思いついた。これも反響を呼び、スタート元年の2019年度、そして昨年度も多くの方々や企業から寄付が寄せられた。

3年前から始めたのが「大宅文庫・パトロネージュ」である。大宅文庫に継続して支援していただこうと、毎年会費を支払う形の寄付制度を思いついた。これも反響を呼び、スタート元年の2019年度、そして昨年度も多くの方々や企業から寄付が寄せられた。

パトロネージュ再起動

Next50

文庫存続支援が決め手

知的創造へネットと融合も

遺贈で雑誌守つて

近年終活を始める方が増え、遺産を世の中のために役立てたいと遺言を残す「遺贈」が注目されている。万一大宅文庫が存続できなくなれば、明治以降の貴重な雑誌80万冊は雲散霧消しかねず、所蔵雑誌を利用する知的活動が難しくなる。

失うものは余りに大きい。その意味で、大宅文庫を遺贈の対象にしていただければ、我々は存続の心配をせず業務に専念できる。

厚かましいお願いで恐縮だが、遺贈や寄付を検討されてもおられる方をご存じの読者諸氏がいらしたら、ぜ

パトロネージュ・遺贈のご案内は最終面をご覧ください

ひ文庫事務局にお知らせいただきたい。どうかよろしくお願いいたします。

大宅文庫は、新たな半世紀を歩み出した。

「Next50」プランでは、活字とネットを融合した新手法を

開発し、さまざまな組織や人々と連携して新しい知的生産・知的活動を展開したいと考えている。所蔵雑誌に新たな命を吹き込んで新発想の文化を創造する——これが、第2期大宅壮一文庫の使命である。

驚き 大宅文庫の早業
村山 利栄さん

(前田建設工業、新生銀行各社外取締役ほか)

義姉のグラビアを探したいと
突然死去。「超一流のシンソン」
だった彼の受けたショックは並
々ならぬもので、ことあるごと
に彼女を懐かしがり、「姉は雑
誌のグラビアを飾っていた」こ
とを自慢していた。

「人生には思いも
よらないことが立て
続けに起こる」としみじみ実感
した数年前、最後のパンチは20
年前に離婚した元夫が64歳で亡
くなったという知らせだつた。
離婚はしたが、息子の結婚式で
は隣に座り、これまでの来し方
を語り合いたいと思っていた。

彼との出会いは、売れっ子モ
デルだった彼の姉の紹介による
ものだったが、その姉は43歳で
突然死去。このグラビアを持った元
夫の墓参りすることを、ポスト・コロナの最初のTo Doリストに掲げている。

応援歌



思ひながらも、掲載されたのは昭和40年代のこと、半ばあきらめていた。昨年、たまたま知遇を得た大宅文庫の関係者に、「雑誌の名前が分からなくても、モデルの名前と大体の時期が分かれれば探し出せるはず」と聞き、ダメ元でお願いした。

後日、何と懐かしい、美しい若かりし頃の元義姉のグラビア3枚が送られてきた。驚愕! 大宅文庫おそるべし。早速、パトロネージュ会員に仲間入りをさせていただいだ。

専門図書館の蔵書管理・検索サービスなら
「情報館」



ブレインテック

株式会社ブレインテック
<https://braintech.co.jp/>

情
報
館

大宅壮一の「無思想人宣言」

私は大宅壮一マス
コミ塾七期生である
が、大宅先生はなん
ともチャーミングで
あつた。

Digitized by srujanika@gmail.com

的常識にがんじがらめが生まれるんだ。きみ見ているほうが、おかしい」
その真面目そうな女教師は、まさか怒られるとは夢にも思わなかつたのである。



おおした・えいじ 1944年、広島県生まれ。広島大学文学部仏文科卒業。70年、週刊文春の記者となる。記者時代「小説電通」(徳間文庫)で作家デビュー。月刊文藝春秋に発表した「三越の女帝・竹久みちの野望と金脈」が反響を呼び、岡田社長退陣のきっかけとなつた。83年、週刊文春を離れ、幅広いジャンルで創作活動を続けている。近著に「内閣総理大臣」「自民党幹事長二階俊博伝」(エムディエヌ)、「スルガ銀行かぼちやの馬車事件」(さくら舎)、「映画女優吉永小百合」(祥伝社)など。

A photograph showing an open notebook with handwritten Chinese text on the right page. To the left of the notebook is a book cover for '三無宣言' (Three Non-Aligned Principles) by Mao Tse-tung. The book cover features a portrait of Mao Tse-tung and the title text.

に別の塾生のひとりが質問した。「田んぼの中に鉄塔を建てることで、電力会社に住民が抗議してもめている。わたしは、それを追つて取材している」

細かい事情を説明

がひどい、と同調してくれるにちがいない、と思いこんでいたのである。

大宅先生は、冗談めかした口調になつた。「きみは、住民の側に立つたちをとつて、電力会社を攻めて、裏で妥協して力ネを取ろうというのではないのかね」

団星だつたのである。かれはいわゆる「取り屋」と呼ばれる種類の雑誌を出していた。

が、大宅先生の眼は、小学校の女教師はあれほど怒ったのに、かれに對しては、咎める視線は、およそなかつた。

し、大宅先生はどう考えるか、いかにも正義感めいた姿勢で訊いた。

大宅先生は、聞き終るとニヤリと笑つた。「ところで、きみイ、きみは、それを取材して、なにをしたいんだ」

質問した塾生は、あれ？ という

特別寄稿

なにより人が好きだつた

作家大下英治



画・ビッグ錠

卒業論文のようなレポートのタイトルは、塾長の「草柳大蔵論」であった。私は、大宅壮一と草柳大蔵の比較論を書いた。

「大宅壮一は、太陽である。草柳大蔵は、月である」

大宅先生は、たとえていえば家の中の籐椅子に座っていて、家の前を通る人間の品定めをあれこれ、おもしろおかしく語る。あくまで陽性であつた。

大宅先生は、自分の出身地である大阪人のことを「華僑」になぞらえて「阪僑」と表現し、かれらしい表現でこうあらわした。「『オマン×文化圏』と『オメ×文化圏』は、明確にちがう。『オマン×文化圏』の東京は、江戸以来の武士文化であり、

建て前が先に立つ。いっぽう、「オメ×文化圏」の大坂は、江戸以来の町人文化を伝統とし、本音で生きている」

関東圏の横浜生まれの草柳大蔵さんは、まちがつてもこのような俗称を口にはしない。

大宅先生の代表作は『無思想人宣言』であるが、ひとつイデオロギーなり、尺度で物を見ようとは、ほとんどしなかつた。あるがままの人間を、善悪を超えて、あるがままに見ようとしている。なにより人間が好きでならない。善、悪の二元論で人間を見てはいない。眼の底は、冷たくはない。リアルな眼の突きぬけたはてに、そこはかとないおかしみを見ていた。

し込むことも可能で、その場合は来館しなくても記事が読める。

上・下2冊セットで10万

5600円(税込み、送料無料)

（注文に応じて製本）のた

り、記事は掲載された雑誌の発行日順に配列した。19

年のキーマンを通して人物情報だけでなく、同年の世

相も知ることが出来る内容

で、読み物としても楽しめ

る。また、掲載されたデー

タを基に、希望する雑誌記

事のコピーを大宅文庫に申

しの件数を記入して送付して下さい。

19年版に続く今号には、

18年版に受け付けていた。

17年版に受け付けていた。

16年版に受け付けていた。

15年版に受け付けていた。

14年版に受け付けていた。

13年版に受け付けていた。

12年版に受け付けていた。

11年版に受け付けていた。

10年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

1年版に受け付けていた。

0年版に受け付けていた。

9年版に受け付けていた。

8年版に受け付けていた。

7年版に受け付けていた。

6年版に受け付けていた。

5年版に受け付けていた。

4年版に受け付けていた。

3年版に受け付けていた。

2年版に受け付けていた。

コロナに脅かされる首都・東京の命運を担う政治家・小池百合子。
女性初の都知事であり、次の総理候補との呼び声も高い。しかし、
われわれは、彼女のことをどれだけ知っているのだろうか。

第52回

大宅壮一
ノンフィクション賞
受賞!

女帝 小池百合子

石井妙子・著



石井妙子 著

女帝 小池百合子

20万部
突破!

● 定価 1650円(税込)
電子書籍も発売中

稀代の女性リーダーか?
それとも「扇動者」か?
誰にも知られたくなかった、
数奇な半生を明かす!

「芦屋令嬢」育ち、謎多きカイロ時代、キヤスターから政治の道へ——。今まで明かされることのなかつたその数奇な半生を、三年半の歳月を費やした綿密な取材のもと描き切る。

第52回大宅壮一ノンフィクション賞 受賞記念特別寄稿

いしい・たえこ 1969年 神奈川県茅ヶ崎市生まれ。白百合女子大大学院修士課程修了。囲碁観戦記者を経て、2006年「おそめ 伝説の銀座マダムの数奇にして華麗な半生」を発表、作家活動を始める。東京都西東京市在住。

ノンフィクション作家

石井 妙子



©文藝春秋

この度、『女帝 小池百合子』（文藝春秋）を上梓し、第52回大宅壮一ノンフィクション賞を頂戴しました。憧れの賞を頂き、誠に光栄なことだと思っております。『女帝』はもとより、これまでの作品で大宅文庫のお世話にならずに書き上げたものは一つもありません。大宅文庫なくして、私の執筆活動は成り立たないです。『女帝』では小池百合子東京都知事の過去の発言を数十年分、大宅文庫で遡って調べました。テレビでの発言は残念ながら、このように調べることができませ

ら、貴重なものです。

新聞の縮刷版を見ても一般の人々の関心がどこにあったのかは、なかなか見えきません。たとえば世の中が連日、ある芸能人の離婚騒動に大騒ぎになつたとしても新聞には一行も書かれていない、ということがあります。

『女帝 小池百合子』

(文藝春秋)

ん。活字という文化の強さを感じました。ニュースキャスターから政治家へと転身していく小池百合子氏ですが、その発言を調べてみると、彼女の矛盾点が浮き彫りになります。彼女自身によつて、いかに過去が塗り替えられていったかを検証することができました。また、雑誌で小池氏が発表した手記や対談、インタビュー記事を調べることによって、彼女の実像を明らかにし、人生の軌跡を追いかけられることもできました。すべて大宅文庫のお蔭です。雑誌は読み捨てられることを前提に作

られている夢があり、時間の制約の中で作られているので間違えもありますし、信憑性の疑われる記事も含まれるわけですが、読み込み、精査することによって資料となり得ます。また、時代や社会を知る上では、なんと言つても大変にお世話にならずに書き上げたものは一つもありません。大宅文庫なくして、私の執筆活動は成り立たないです。『女帝』では小池百合子東京都知事の過去の発言を数十年分、大宅文庫で遡つて調べました。テレビでの発言は残念ながら、このように調べることができませ

る、ということが多々あります。

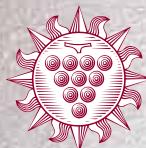
『女帝』では小池百合子という人物の実像を探ることと並んで、彼女を生み出した平成という時代や社会を考えることも大きな目的の一つでした。ですので雑誌を丹念に見ることを、より重視したのです。最近だと大宅文庫の個人会員についているのでネットで検索し、ファックスや配達で必要な資料だけを取り寄せてしまっても多くのですが、実際に雑誌を手にすると時代の空気が掴めますし、探していた記事よりも、さらに興味深い記事に遭遇するという幸運に巡り合うこともあります。大宅文庫でゆつくりと半日、古雑誌を繰りたい。今の私の願いです。

「半日、古雑誌繰りたい」

大宅壮一の業績を記念して、公益財團法人日本文学振興会が各年度の優れたノンフィクション作品を顕彰。授賞式は6月23日に都内で行われた。今回の受賞作以外の候補作品は次の4篇。
片山夏子「ふくしま原発作業員日誌」(イチエフの真実、9年間の記録) (朝日新聞出版) ▽佐々涼子「エンド・オブ・ライフ」(集英社インター・ナショナル) ▽春名幹男「ロッキード疑惑」角栄フ葬リ巨悪ヲ逃ス (KADOKAWA) ▽山本草介「一八〇秒の熱量」(双葉社)

大宅壮一ノンフィクション賞

日本がおいしくなるワイン。



MANNS WINES

徹底したこだわり

「ソラリス」シリーズは、国産（長野県・山梨県）ぶどうのみを原料として、
ぶどう栽培から醸造まで徹底してこだわり、造りあげる日本ワインです。
勝沼と小諸、二つのワイナリーで醸造からびん詰めまで一貫して行い、
出荷されます。

徹底した温度管理

ワインは、専用の定温倉庫
で15度前後に保って保管し、
出荷の際はクール便で
配送。お客様へお届けする
まで徹底した温度管理を行っています。



世界の銘醸に肩を並べる 日本ワインを目指す。 マンズワイン「ソラリス」シリーズ

※SOLARIS<ソラリス>とは、
ラテン語で「太陽の」という意味。
陽光をたっぷり浴びて育つ良質の葡萄だけを
使うというマンズワインの思いをこめた言葉です。

kikkoman 

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。



いつでも新鮮
しぶりたて 生しょうゆ

「生しょうゆ」の「生」って何?

って思つてたけど、そうか、これなんだあ。

フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。

その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた

鮮やかな色、おだやかな香り、さらりとしつつ豊かなうまみ。

そして、開けてからも鮮度をキープする、やわらか密封ボトル。

一滴ずつ使って、最後の一滴まで新鮮。

いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。

あ、しぶりたて。
が、いつでも新鮮。



キッコーマンお客様相談センター 0120-120-358

kikkoman
おいしい記憶をつくりたい。

ご成婚祝う「特大号」

光る梶山、半藤の熱筆

週刊文春

今や「文春砲」で名高い「週刊文春」。その創刊号が文藝春秋新社（当時）から発行されたのは、「週刊新潮」から遅れること3年、1959年4月8日だつた。後の平成・天皇になら新潮から遅れること3年、1959年4月8日だつた。後の平成・天皇になら

れる皇太子さまと正田美智子さま（現上皇・上皇后ご夫妻）のご成婚を2日後に控え、祝賀色を前面に押し出し、皇室関連記事を手厚く盛り込んで「創刊特大号」と銘打つ誌面となつた。表紙の写真は和服姿の美智子さま。気品あふれる若きプリンセスの表情が印象的だ。



※ミッチャー・ブーム 正田美智子さまが明仁親王と一緒に結婚することでの社会現象。「テニスの恋」が話題になった。

二人の写真に続き、美智子さまの出身地である群馬県

一番手には「『孤独の人』に最良の日」を組んだ。お

グラビアを挟んで特集の一一番手には「『孤独の人』に最良の日」を組んだ。お

正王たゞと結婚することでの社会現象。「テニスの恋」が話題になった。

大宅が週給制実施論
「週刊文春」創刊号の「特集2」で世論に訴えたのは「週給制実施論」。月給制では使い切つてしまえば「デイト」もまたならない。「月給はもう古い」という論調だ



ボは完全に週単位」として、週給性の導入を支持している。

「亭主が女房に給料をまかす手間が増える」との突っ込みには、「そのかわり、女房が亭主のかかるさ。アッハッハ」。さすがは「偉大なる野次馬精神の持ち主」（同誌）である。

が、ここでも大宅壯一が登場する。

大宅は、徳川時代の石高1年俸まで遡つて給与

が、ここでも大宅壯一が登場する。

Inspire Impossible Stories

「おもしろくて、ためになる」を世界へ



KODANSHA

主な週刊誌の創刊年

1922年	週刊朝日（朝日新聞出版）
	サンデー毎日（毎日新聞出版）
52年	※週刊読売（読売新聞社）
56年	週刊新潮（新潮社）
57年	週刊アサヒ芸能（徳間書店）
58年	週刊女性（主婦と生活社）
	週刊大衆（双葉社）
	週刊明星（集英社）
	週刊実話（日本ジャーナル出版）
	女性自身（光文社）
59年	週刊現代（講談社）
	週刊文春（文藝春秋）
63年	女性セブン（小学館）
	ヤングレディ（講談社）
64年	平凡パンチ（マガジンハウス）
66年	週刊プレイボーイ（集英社）
69年	週刊ポスト（小学館）
81年	週刊宝石（光文社）
	FOCUS（新潮社）
84年	FRIDAY（講談社）
86年	FLASH（光文社）
88年	AERA（朝日新聞出版）

（出版社名は現在の社名で統一。※は週刊化年）

「週刊ポスト」は総合週刊誌の中では後発だが、小説館が満を持して世に送り出した感があり、業界に大きなインパクトを与えたのは間違いない。80年代後期から21世紀初頭にかけては週刊誌業界で最多の売り上げを長く記録した。

当初から読者のターゲットを明確にサラリーマン層に絞った。69年8月に出た創刊号の主力記事は「フ

ト日本上陸作戦」（写真）。日本上陸作戦

満持しサラリーマン狙い

週刊ポスト

などに比べて目立つのは、

などがうかがわれる。

とりわけはカラー多さだ。初の東京五輪から5年が経ち、出版文化も急速に発展したこ

とがうかがわれる。

とりわけはカラー多さだ。初の東京五輪から5年が経ち、出版文化も急速に発展したこ

とがうかがわれる。

多色広告が4面にも及ぶ。掲載されたテレビの価格は19型で20万円近い。大卒者の初任給が3~4万円、この時の「週刊ポスト」の価格が70円だったのに比べ、その高額さに驚く。

内容の濃い情報を満載し、女性のグラビアも控えめにして船出した。

「現代」「ポスト」参入全盛時代



「週刊新潮」「週刊文春」とともに出版4社による週刊誌の全盛時代を築いたのが「週刊現代」と「週刊ポスト」だ。両誌の創刊には10年の開きがあるが、高度経済成長期の真っただ中にあって、サラリーマン層などの支持を得て飛躍を遂げた。

「週刊現代」の創刊は1959年3月30日。「週刊文春」（4月8日）よりわずかに早い。皇太子さまの成婚ブームに照準を当てた狙いが浮かび上がる。老舗の講談社は同年、創業50周年を迎えていた。この記念すべき年にあたって

が成婚ブームに照準を当てた狙いが浮かび上がる。老舗の講談社は同年、創業50周年を迎えていた。この記念すべき年にあたって

が成婚ブームに照準を当てた狙いが浮かび上がる。老舗の講談社は同年、創業50周年を迎えていた。この記念すべき年にあたって

が成婚ブームに照準を当てた狙いが浮かび上がる。老舗の講談社は同年、創業50周年を迎えていた。この記念すべき年にあたって

が成婚ブームに照準を当てた狙いが浮かび上がる。老舗の講談社は同年、創業50周年を迎えていた。この記念すべき年にあたって

表紙に「テニスコートの恋」

週刊現代

した。早くも「皇子誕生を祈る『三箇夜餅（みかよも）の儀』」にまで踏み込

むのは、いささか拙速の感のジョー」という伝説的なヒット作を得て、週刊現代との2枚看板で快進撃を続

けた。

同社が「新分野の開拓」を具体化した一つが「週刊現代」の創刊だった。

創刊号の作りは、実に手が込んでいる。まず表紙。

テニスコートと「V」字を構図は、一見すると地味に映るが、ご成婚に至った「テニスコートの恋」をイメージしたのだ。ボールの表面に「HAPPY MARRIAGE TO YOU」の文字を配したあたりが心憎い（写真①）。

特集のトップは「御成婚はこのように行なわれる」（同下）。ご成婚の初日か

昭和を彩った週刊誌の絶頂時代は長くは続かなかった。デジタル社会の進展と国民のライフ・スタイルの変化のはざ間で、各誌は急激な読者離れと広告の減収にあえぎ、冬の時代を迎えている。

主要各誌は全盛期に軒並み100万部台の好況に沸いた。写真誌の「FOCUS」は、創刊3年目にして200万部の売り上げを誇った。しかし、かつての4000億円市場が今は2000億円をも割り込む。休刊・廃刊の道をたどった例も少なくない。急成長した分だけ退潮も早かつたと言える。

一部は過激な女性のヌード路線で部数を回復させたが、決定打にはなり得ていない。

その中で「週刊文春」と「週刊新潮」はスクープで覇を競う。「週刊現代」や「週刊ポスト」などは、ターゲットを増え続ける中高年者に絞り、高齢社会向けの情報の提供に努める。生き残りをかけた模索と挑戦が続く。（渡）

読者、広告減り時代の一転

した。早くも「皇子誕生を祈る『三箇夜餅（みかよも）の儀』」にまで踏み込

むのは、いささか拙速の感のジョー」という伝説的なヒット作を得て、週刊現代との2枚看板で快進撃を続

けた。

同社はこれより2週間早

ら1週間後の伊勢参りなどまでの『四半世紀に一度』の最大のショーンの流れを、

10%を割いて事細かに解説

追悼 立花 隆さん



仕事場で執筆する立花さん（1983年撮影、文藝春秋提供）

「田中角栄研究」などで知られるジャーナリスト・評論家の立花隆さんが4月30日、80年の生涯を閉じた。文藝春秋で立花さん執筆の6冊の編集を担当した石橋俊澄さんが、「超人」との壮絶なまでの思い出を寄せた。

「超人」に寄す

元文藝春秋編集委員

石橋 俊澄



真価 ロツキード裁判後に

評伝

立花さんはしばしば「知の巨人」と呼称されたが、私は個人的にその言い回しは好きではない。「知」に向かうときの姿勢こそ、デモニッシュな迫力に

満ちていたが、その生き方は決してイバることもなく人に贅沢なことを要求するのでもなく、じつに恬淡としたものだった。自身を「知の巨人」とは露とも思っていなかつたろう。私には

者よりも、立花さんの法理の理解がはるかに深いことがわかる。そして快刀乱麻を断つような、論理の切れ味は驚嘆すべきもので、爽快ですらある。この論争のために、何百冊を読んだ

が雲霞のごとく湧いて出たが、彼はまさにたった一人で闘つた。

『論駁（1～3）』

や『ロツキード裁判批

判を斬る（1～3）』

を読んでいただきたい。

名だたる法曹関係

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

些細なことに思われた。どうし

てそんな事態になるかと言っ

と、原因は執筆方式にある。な

にしろ書き下ろしの場合、30回

は推敲を重ねるのだ。

そのよう

にして、立花さんの文章は読み

やすく曖昧性が排されたものに

なるのである。

ただ、そんなことも作品を作

り上げるという喜びの前では、

立花隆さんは、大宅文庫にも多大な足跡を遺しました。調査報道の旗手として、その存在を一気に社会に知らしめた「田中角栄研究」その金脈と人脈」(1974年「月刊文藝春秋」)は、大宅文庫の膨大な資料から採取したデータが基になったものです。そうした

つながりから文庫への思いは熱く、76年発行の「大宅壮一エッセンス5巻」(講談社)に、「大宅文庫と私」と題したエッセーを寄せていました。その一部を抜粋した「大宅文庫ニュース第21号」(82年12月)の巻頭記事を再掲し、立花さん的人柄をしのびます。

「文庫は全マスコミ人の遺産」

立花さん 遺稿に熱い想い

生身の大宅(壯一)さんはまるで接觸がなかったが、大宅さんの遺産には、お世話になりっぱなしである。大宅文庫のことである。大宅文庫なしには、「田中角栄研究」をはじめとする私の幾つかの仕事は、ほとんど不可能だつたろう。最近はジャーナリストなら誰でも大宅文庫の効用を知つてゐるようだが、「田中角栄研究」のころはそうでもなかつた。新聞記者から方

角栄研究」をはじめるにあたって、まつ先に大宅文庫のことをあげると、「大宅文庫って何ですか?」ときかれることが何度もなつた。で、幾度となく、大宅文庫の何たるかを説明し

コム全体が受けている利益にはばかりしないものがある。大宅文庫はいまも成長過程にあり、その効用は今後ますます大きなものになるだろう。(中略)

大宅文庫の第一の存在意義は、これを通して、日本

の有名無名あらゆるマスコミ人たちの雑誌メディアを通じての仕事が、生きた有

機体として統合された形で継承されていくことにある。大宅文庫という機構は

文庫」の存在を、その創世期から知っている。つまり「大宅文庫」ではなく、大宅家の書庫でしかなかつた時代からである。大宅さんの雑誌集めに、いつごろから組織的記事分類がほどこされるようになつたか、正確なことは知らないが、少なくとも私の学生時代(も

う十八年前になる)にはそれははじまつていた。何人かの学生アルバイトを雇つて、来る日も来る日も記事を分類のカード作りをやらせていました。その学生アルバイトの一人に私はなりかかつたのである。

私の伯母に、戦前から大宅さんと家族的なつきあいをしていた人がいる。私が大学生になって、駒場寮に

住んでいたころに、伯母の家に遊びにいくと、「どうだお前も。やる気がないかとペイがいいか悪いのかの二点にしかなかつた。ペイのほうは標準的だつたが、仕事の内容のほうはかなり面倒のようだつたのだが、将来こんな世界にたどさそわれた。

そのときははじめて、大宅家の書庫がどんなにすごいもので、そこにどんな資料が集められ、どんな整理がなされているかを聞いたのだが、将来こんな世界にたづきの道をえようとは夢に



(文藝春秋提供)

関連資料「ドサツと山のようなコピーモード」

立花さんは、75年1月の文藝春秋『田中角栄研究』の内幕で、大宅文庫での資料集めについて具体的に記した。

それによると、索引で「田中角栄」を引くと、「田中角栄氏について書かれたあらゆる記事がドサツと出てくる」。さらに「黒い霧」などの関連があり、その項目を引いて「山のようなコピーをとり、新刊、古書の田中氏に関するあらゆる本を書き集めた」という。

立花さんは、財団法人時代の大宅文庫で評議員を5年間(1995~2000年)務めるなど、文庫の運営にも寄与した。また、大宅壮一ノンフィクション賞(大宅賞)には長く選考委員として携わり、優れたノンフィクション作品の発掘と気鋭のライターの育成に力を注いだ。すべてにひたむきな立花さんは、その選考にあたつても全力投球だった。第22回(91年)は家田莊子さんの「私を抱いてそしてキスして」

「何を」書いたかが大切 立花さん 大宅賞で強調

立花さんは、島宏明さんの「母さんが死んだ」を強く推した。同年5月の文藝春秋で立花さんが著した選評では、「ノンフィクションにおいては、『何を』書いたかが、『いかに』書いたかより以前に大切」と指摘。『テーマが読者にとつてどうでもいいことであれば、それがどんなに上手に書かれていても、作品としての価値は低い』と断じた。

日本のマスコミ界に永く記憶されるだろう。

実をいうと、私は「大宅

創立50周年記念

大宅壮一文庫所蔵総目録

公益財団法人 大宅壮一文庫 編

雑誌の専門図書館 大宅壮一文庫の所蔵の全て

日本唯一の雑誌専門図書館・大宅壮一文庫が所蔵する約 12,700 誌、約 80 万冊の所蔵総目録がついに刊行。全ての所蔵雑誌のタイトルと所蔵号が、創立以来初めて明らかになります。雑誌タイトルや出版者の変遷も記載しており、「雑誌事典」としてもご活用いただけます。



日本唯一の雑誌専門図書館
大宅壮一文庫 編

解説：阪本博志（帝京大学）
B5 判上製画入 776 ページ

公益財団法人 大宅壮一文庫とは



日本で唯一の雑誌専門図書館。評論家・大宅壮一（1900-1970）の雑誌コレクションを引き継ぎ、1971年に設立されました。明治時代から現在に至るまで 150 年余りの雑誌が所蔵され、年間約7万人の利用者に活用されています。記事を読み込んでの索引採録に大きな特徴があり、記事索引データベース「Web OYA-bunko」では、主な所蔵雑誌の記事索引を検索することができます。

YouTubeで公開中!

<https://www.youtube.com/watch?v=Bpl2KJLJyIc>

『大宅壮一文庫所蔵総目録』詳細発表トークイベント

本書の詳細を発表しますと同時に、大宅壮一文庫の平澤昇様、下村芳央様をお招きして、お話を伺いました。大宅文庫に所蔵されている雑誌の実例とともに紹介しています。



こちらの QR コード
からもアクセスして
いただけます

的な見地からメスを入れた「大宅壮一文庫解体新書」（阪本博志帝京大教授編）が5月17日、勉誠出版（東京都千代田区）から刊行された。学者や研究者を動員し、文庫の歴史や所蔵資料、大宅壮一の思考にも迫る。開館から50年の実績を積み上げ「知と情報」が集積する文庫の活用を、これらの世代に促す内容で、そのガイドブックとしての役割が期待される。

大宅壯一文庫 解体新書

「情報と知」学会が論考 データ活用促す



所蔵する大宅壯一文庫。まだ光の当てられない雑誌があるのではないか」。3年前、阪本氏（当時・宮崎公立大准教授・写真）が、石川巧・立教大教授に相談したのをきっかけに、「解体新書」企画が動き出した。

阪本氏は「大宅壯一の『戦後』」（人文書院）を著した大宅研究の第一人者。石川氏は「幻の雑誌が語る戦争—『月刊毎日』『国際女性』『新生活』『想苑』」（青土社）などの著書があり、大宅文庫への造詣が深い。

本書は A5 判・全 257 ページ。5 章からなり、各執筆者が文庫 자체や記事索引について考察。さらに文庫のデータベースや資料を活用して政治・社会(世相風俗)から文学・文化に至る広範な領域の論考を著した。

阪本氏はあとがきで、「本書が、大宅文庫を用いて調査研究をおこなわれるおひとりおひとりにとって有効なガイドブックになれば幸い」と記している。

大宅文庫が所蔵する約1万2700誌、約80万冊のすべての雑誌タイトルや所蔵巻号・発行年月日を一覧化した「大宅壮一文庫所蔵総目録」が、開館50周年記念日に合わせて5月17日、皓星社(東京都千代田区)から刊行された。雑誌の専門図書館である大宅文庫の膨大な蔵書の全容を、初めて明らかにした。明治期から現在までの日本の大衆雑誌を俯瞰できる一級の書だ。

同社と文庫の専門スタッフが2年余の歳月を費やしてデータ化した。創刊号の所蔵は7000誌以上、他では見られない貴重な雑誌も多数多くあり、各誌のタイトルや出版者、発行頻度の変遷も記載した。これにより「どの雑誌を何年から何年まで所蔵しているか」を瞬時に調べられ、「雑誌事

典」のように活用できる。卷末には、阪本博志帝京大教授による解題「『雑誌人間』大宅壮一の『雑誌図書館』大宅壮一文庫」を収録。大宅壮一の雑誌への思いや大宅文庫の成り立ちなどを、写真を配して詳しく説明している。

始まり、データ化にいたるまでに多くの時間と労力を要した。巻号が不規則なもの、発行年月日やタイトルの読み方が確定できないものなどを、どう表記するか迷うケースもあつたが、文庫の担当者は「その混沌や多様性がまた大衆雑誌のおもしろさでもあると感じた」と回顧する。

社は「この総目録が一つのきっかけとなり、大宅文庫の蔵書がこれまで以上に幅広く利用され、新たな価値が生まれることを期待する」（晴山生菜代表取締役社長）としている。

50周年
2大「大宅本」

記念日 5月17日 同時刊行

80万冊の全容明らかに

大宅壯一文庫所藏總目錄

大宅文庫が所蔵する約
1万2700誌、約80万
冊のすべての雑誌タイト

この総目録が一つの
けとなり、大宅文庫

コロナ禍くつきり
昨年の索引作成数

【件名】	【人名】
コロナ	①安倍晋三
内閣	②菅 義偉
ターネット	③嵐
一般	④秋篠宮眞子
品	⑤田中みな実
ノビデオ	⑥Snow Man ⑦志
ーション	⑧なにわ男子 ⑨カ
(米国)	ゴーン ⑩乃木坂46

Information



「大宅壯一君は……」で始まる弔辞原本。書き損じの修正部分もある。

川端氏、大宅を「哀惜追慕」

弔辭原本、半世紀経て公に

ノーベル賞作家の川端康成氏（1899～1972）が1970年11月の大宅壮一の葬儀で
読んだ弔辞の直筆原本が、巻物に表装された完璧な保存状態で大宅文庫内から見つかった。

2人の長い盟友関係は、よく知られていたが、独特の筆致で1090字にものぼる文面からは、大宅に対する昭和の文豪の痛切なまでの思いが改めて読み取れる。

川端氏は大宅の生涯の業績を「私が何を贅言することがあろう」とたたえた後、「大宅君に四、五十年前に

大宅文庫の開館50周年と
川端康成氏の弔辞原本の二
ユースは、マスコミ各社が
相次いで報道し、大きな反
響を呼んだ。

5月の記念日を前に、文庫側は都内で記者説明会を開いた。当初予定したゴールデンウイーク期間中の

恩義を受けながらなんら酬
いる事のなかつた者」と自
身を謙虚に省みた。そのう
えで「哀惜追慕悲悼する念

呂敷に包まれて保存されて
いたことが分かった。

川端氏と大宅は旧大阪府
立茨木中のO Bで、1歳年
下の大宅は川端より2年遅
れで入学。付き合いは濃密
で、互いの結婚後に一時は
東京・阿佐ヶ谷で隣り合つ
て暮らすほどだった。

写真が映す大宅文庫50年

た。 大宅文庫の半世紀の歴史を
をするす写真と館内イラストが、文庫1階ロビーで展
示中だ。5月の開館50周年を記念して初めて企画し

「写真が辿る大宅壮一文庫50年」と題したコーナーには、懐かしいモノクロ写真18枚を掲示。文庫の前身で大宅壮一が最終的に20五年冊の雑誌・書籍を集めた「雄

「草文庫」時代の建物外観や
壮一・昌夫妻のにこやかな
表情などから、往時の断片
が佚し出しえる。

が映し出される
イラストは開館から5年
後、10年後と、ほぼ現在の

姿になつた1987年以後の館内を描写した。惜いながら

の館内を描写した。昔も今も決して広くはないフロアで、来館者が肩をぶつけ合うようにながら資料集めをする様子がユーモラスに



懐かしの18枚 館内イラスト

描かれている(25ページ参照)。年内いっぱいは展示を続ける予定だ。ロビーまでの入館は自由。

コロナ収束後に公開へ
川端氏の弔辞原本について、大宅文庫は当初、5月

文庫来館者増へ 学生がアイデア

東洋美術学校の30人

文庫来館者増へ
学生がアイデア
東洋美術学校の30人



大宅文庫について学ぶ学生たち

文庫の実力 社会に貢献

「一切なりゆき」出版導く

大宅文庫が所蔵する書籍・雑誌は80万冊。古くは明治期までさかのぼる膨大な資料は、出版やマスコミ界に不可欠な存在です。この1年も、様々な分野でその実力を発揮しました。



「一切なりゆき」(文春新書)

大宅文庫 インフォメーション

事件記事なぜ減少?

雑誌に限らずマスコミの犯罪報道は、事件関係者への強引な取材方法など、問題点は

私は大宅文庫の索引作成担当。なぜか犯罪分野が得意です。最近の悩み、それは雑誌の事件報道がとにかく減っていることです。かつての週刊誌や総合月刊誌で、事件報道はある種の花形でしたよね。それが今や、ちょっとと注目されたぐらいの犯罪では取り上げられないのです。例えば女性週刊誌なら女性や子供が被害に遭う犯罪、男性週刊誌であれば性犯罪など、記事の内容が絞り込まれてきている感じがしま

す。事件報道は、事件関係者への強引な取材方法など、問題点はたくさんあるのかも。でも、事件のアウトライインを追い、動機や背景を理解し、人々の心理などを分析していくことは、社会問題を解決するうえで一つの方法になるはず。そのためにも暴露趣味にとどまらない、きちんとした犯罪報道は重要だと思うのです。変わった女性の場合です。

八幡山索引日記 2021

大宅文庫(世田谷区八幡山)で索引作りに取り組む職員の日々の思いを伝えます。

何十年という長いスパンで雑誌記事をデータベース化していると、過去に登場した人物が後の雑誌に掲載されることが珍しくありません。ここで厄介なのは、結婚して姓が変わった女性の場合です。

女性誌の「素敵なお嬢さん」系の記事は、至る所にこのトラブルがしきられています。余談ながら、この複数の名前の紐づけで最も悩ましい対象は、A

V女優かも。彼女たちは頻繁に芸名を変え、公表しない人が多いですからね。

(山)

藝春秋・石橋俊澄さんによ

ると、樹木さんの訃報を知

り、大宅文庫から約30年分、

400ページほどの記事を取り

寄せて読み始めた。すぐに

「これはいい本になる」と確信し、抜き出し作業を始

めた(「クロワッサン」20

年8月25日号)という。「大

宅文庫がなければこの本は

できなかつた」と石橋さん。

同書は発売とともに増刷

「これはいい本になる」と

を重ね、販売部数は150

万部を超えた。

専修大で受託講座

雑誌ジャーナリズム論

豪華講師陣、9月から全14回

大宅文庫は、9月から専

修大文学部ジャーナリズム

学科(川崎市)で「雑誌ジ

ヤーナリズム論」の講座を

行う。同学科からの依頼を

受け、主にマスコミ志望の

学生たちに雑誌の魅力と大

学文庫の実力を学んでもら

うため受託した。文庫が主

体となっての大学講座は今

回が初めてだ。

講座は9月から来年1月

までの全14コマを予定。文

庫は講座の設定にあたり、

同機関版は大学図書館で

の利用が中心で、従来は図

書館情報学や情報サービス

の授業での活用が主だった。近年はこれに加

えて、例えジャーナリズムを専攻する学科で、調査

テーマを決めて文庫のデータベース検索をし、雑誌記

事から調査結果を発表する

という意欲的な実践例も。

活用の幅は、メディア史や

政治、文学の近現代史など

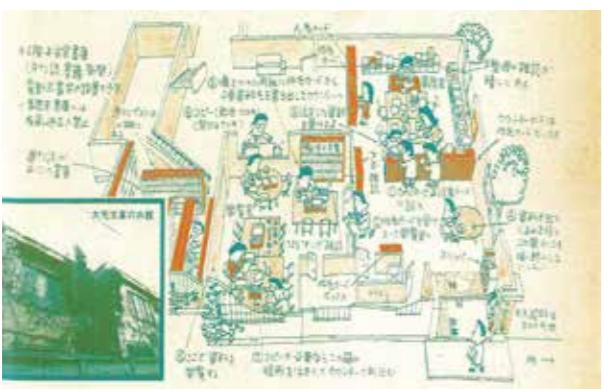
にも広がっている。現在、

同機関版の契約数は133

件。今年度は大阪芸術大(大

阪府)など4大学・高校が新たに利用を開始した。

雑誌の魅力 社会に伝え



開館5年後

前年の1975年に書庫・事務所を増設、閲覧室の収容力は20人強に。事務室(右)が同居し、かなり手狭だった



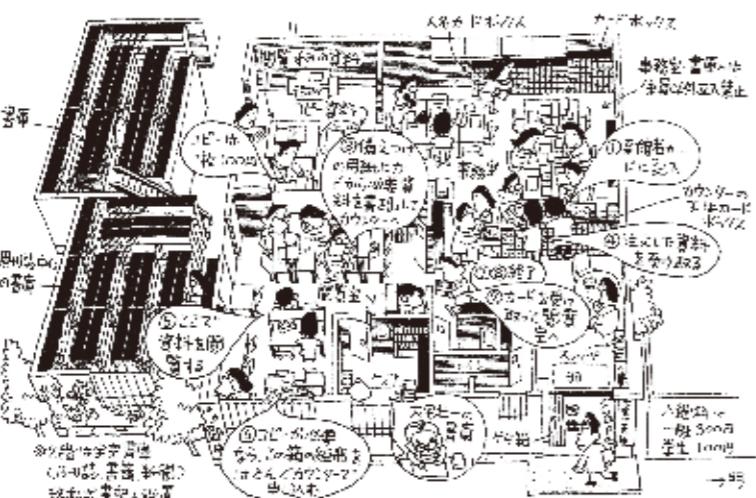
80万冊の雑誌で埋まる書庫の一角

1951年	大宅壯一、自宅に大宅資料室（雑草文庫）創設
56年	大宅式分類法による索引カード作成が始まる
70年	大宅壯一ノンフィクション賞発足 大宅壯一70歳で死去
71年	財団法人大宅文庫創立。初代理事長は昌夫人
75年	書庫・事務所増築
78年	「財団法人大宅壯一文庫」に改称
82年	大宅壯一文庫が菊池寛賞を受ける
85年	新館増築。閲覧席120席に
87年	索引検索ファクシミリ・サービス開始
89年	索引のコンピューター化へ データ登録開始
92年	年間利用者、ピークの2万7,559人
95年	雑誌記事索引検索システムの館内サービス開始
98年	事業収益3億4,000万円でピークに
2002年	web「教育機関版」サービス開始
06年	web「法人会員版」サービス開始
07年	昌理事長100歳で死去。2代目に大宅映子就任
12年	公益財団法人に移行
18年	経営支援組織「大宅文庫パトロネージュ」発足
21年	開館50周年

（二）の書庫は父がつくりました」。大宅文庫が正式に開館する以前に建築された現存書庫の最古部分について、東京都昭島市の西川哲造さん（75）から、こんな思い出が文庫に寄せられた。西川さんはこのほど、文庫を訪れ、亡父・勝太郎さん（1992年・77歳で死去）が手がけた書庫内を見学し、大宅文庫の土台づくりに一役買った父の遺徳をしのんだ（写真）。

勝太郎さんはブロック建設などの会社を手広く経営し、戦後、まだ「ブロック」という名称が存在しなかつた時代に、ベルギーから「気泡コンクリート」の製造技術を国内でいち早く導入、業界の発展に寄与した。社名はテレビのコマーシャルでも流れていた

図解館内の変遷

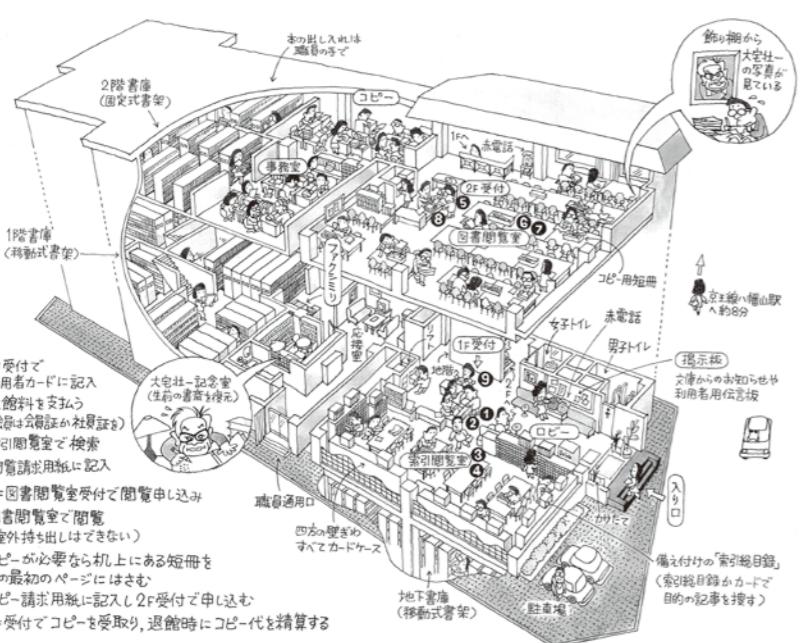


10年後

70年代後半から利用者が急増。
閲覧室のにぎわいが描かれている

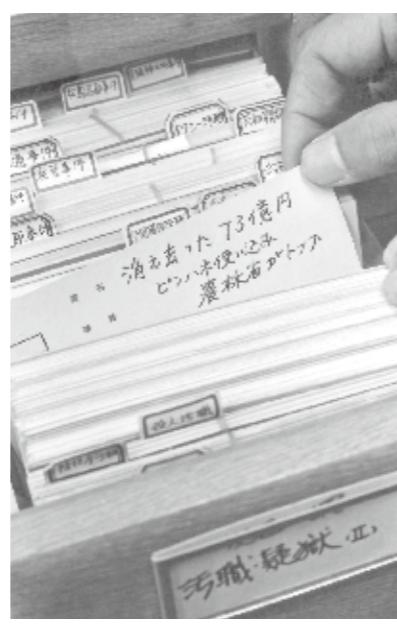


雑草文庫の書斎で永六輔氏と 歓談する大宇壯一(1965年)



15年後～現在

1985年の新館増築で閲覧室は1・2階合わせて120席に拡大。しばらく活況が続いた



手作りのカードだった時代の索引（85年頃）



事務室で雑誌に囲まれながら複写作業をする職員（1980年代）

開館50年懐かしの写真とイラスト



文藝春秋1985年10月号が伝えた「15年目の『大宅文庫』を支える未亡人と若いスタッフ」のカット写真。左端が昌理事長

「文庫の書庫 父が建てた」

昭島の西川さん 感慨新た



A medium shot of a man with a shaved head, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is standing in a narrow aisle of a bookstore, looking towards the right. The shelves on either side are filled with books. In the background, there are posters for various publications, including one featuring a man's face.

20年度パトロネージュに参加された方々

【法人】 講談社▽富士化学塗料▽偕成社▽文藝春秋▽暮しの手帖社▽テレビ東京▽小学館▽潮出版社▽河出書房新社▽筑摩書房▽ジャパン・エンタテイメント・リサーチ&コンサルティング▽集英社
【個人】 熊谷 博子▽長谷川 攝▽野村 隆二▽高橋 岳二▽羽田 忠彦▽渡辺 喜満▽野間 省伸▽山岸 達雄▽吉永みち子▽伊藤 雅俊▽西岡 昌紀▽侯野 隆▽山本紀美子▽天野 優▽福田 珠己▽荒井 俊子▽大西 旦▽渡辺 進一▽稻田 寛▽魚住 溶▽大久保信幸▽雪江佐太郎▽村上篤太郎▽中村 美穂▽鈴木 裕太▽井上 昌彦▽望月 吉彦▽水上 寛裕▽田口 俊明▽若林 茂樹▽稻泉 博己▽矢島 康吉▽本間 啓示▽福田 勝樹▽梅田 純一▽佐藤 和宏▽山崎 進▽徳田 直子▽松本 春美▽牛島 光恵▽松本 京子▽島津 英昌▽高柳 俊彦▽神田 洋▽井上 和明▽加藤さやか▽佐藤 直由▽高江洲 仁▽土屋 隆一▽門倉百合子▽山下 保彦▽篠永 長典▽富田 明生▽東山 健▽吉成 敏夫▽阪本 博志▽元木 貢▽黒井 昭典▽柴田 正明▽鳥山 輝▽有田 順子▽泉 理人▽南 邦子▽荻原 浩

(敬称略 ※公表を了承された方のみ掲載。
複数回の方は1回に省略しました)

「大宅文庫パトロネージュ」

「Next50」へ一層のご支援を

大宅文庫の支援組織「大宅文庫パトロネージュ」(代表デヴィ・スカルノ夫人)は発足3年目になります。「ネクスト50」に歩みを進める当文庫の再生のため、一層のご支援をお願いします。

「文庫守つて」年金で寄付

パトロネージュに参加された会員は、これまでに企業・団体で約30法人、個人はのべ約350人にものぼります。中には、「大宅先生が遺した文庫を守つて」と、2か月ごとの年金が支給されるたびに寄付を続けてくれる男性もおります。

インターネットの普及で年々利用者が減少する中で、昨年からはコロナ禍が重くのしかか



会員には大宅壮一の色紙を裏面にプリントした会員証(④)を呈呈。寄付の内容に応じて「研究員」などの肩書や名刺も贈ります。

△お申し込み△ホームページの専用フォーム、または「支援参加申込書」(HPからもダウントロード可)に必要事項を記入し郵送かファックスでどうぞ。

△対象△趣旨に賛同される企業・団体と個人の皆様△寄付額△企業・団体10万円以上、個人1万円以上

△参加の方法

り、経営環境は一段と悪化を余儀なくされています。皆様のご支援が、これまで以上に当文庫の大きな支えになるのです。



遺贈 相続財産の寄付をお受けします

大宅文庫は、遺贈(遺言によるご寄付)と相続財産のご寄付の受け入れを開始しました。パトロネージュと合わせ、皆様のご芳志を、当文庫の未来に向けた活動に役立てまいります。

遺贈によるご寄付

遺言書に基づき、遺産の一部またはすべてを指定先に寄付する行為が「遺贈」です。遺言書には一般的に「ご自身で作成する「自筆証書遺言」と、公証人役場で作成する「公正証書遺言」の二つがあります。



「相続した資産を社会のために役立てたい」。そうした崇高な善意による寄付です。当文庫がどのように社会に貢献しているか、寄付に値するかなどを詳しくお知りになりたい場合は、ぜひ担当までご一報ください。

内閣府認定の公益財團法人である当文庫への遺贈や相続財産のご寄付には、一定の手続きをすれば相続税がかかりません。

相続財産からのご寄付

に選任された弁護士などの専門家によって遺言の実行が開始され寄付の手続きが行われます。

編集後記

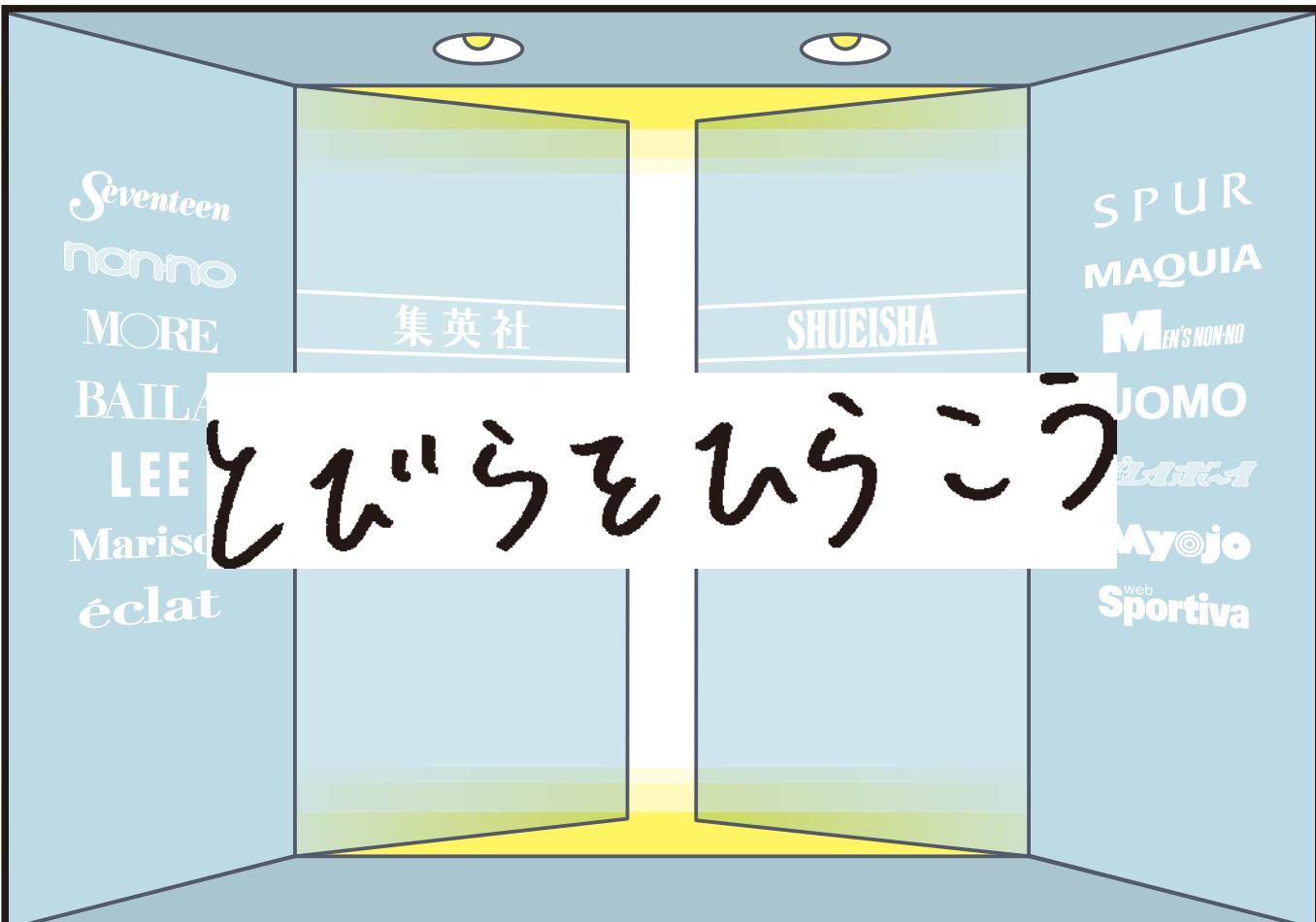
お申し込み・お問い合わせは大宅文庫パトロネージュ・遺贈・相続寄付担当(Tel03-3306-4661)へ。ホームページでも詳しく紹介しています

「一週間マスコミを騒がすのは普通の事件だが三週間になると大事件、四週間も五週間になるとウルトラ事件になる」こう記述したのは1972年9月発行の小説創刊号の編集後記です。今や死語にも近い「ウルトラ」級の報道記事に彩られた雑誌の数々を蓄積

して半世紀。80万冊を所蔵する大宅文庫には歴史的断面が凝縮されています。この情報の宝庫を新たに代につなぎたい、つながなければならぬ。今号はその決意を基に、「ネクスト50」のテーマを掲げ、制作しました。

大宅文庫ニュース第86号
発行所
公益財団法人大宅壮一文庫
理事長 大宅映子
〒156-0056
東京都世田谷区八幡山3-10-20
Tel03-3303-2000
<https://www.oya-bunko.or.jp/>

デザイン補助・石倉真琴



Seventeen
毎月1日発売

non-no
毎月20日発売

MORE
毎月28日発売

BAILA
毎月12日発売

LEE
毎月7日発売

Marisol
毎月7日発売

éclat
毎月1日発売

SPUR
毎月23日発売

MAQUIA
毎月22日発売

MEN'S NON-NO
毎月10日発売

UOMO
毎月24日発売

プレイボーイ
毎週月曜日発売

Myojo
毎月23日発売



web Sportiva
<http://sportiva.shueisha.co.jp>

集英社

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10 <https://www.shueisha.co.jp/>

角川文庫3,300冊以上が 読み放題!

月額836円(税込)
電子書籍10,000点以上が楽しめる!

先行連載作品



野性時代連載

『大正謎百景
遠野はまだ朝もやの中』
青柳碧人

あの名作の裏に、不思議な事件!?
文豪×本格ミステリ!



野性時代連載

『ロスト・スピーシーズ』
下村敦史

生き残り目的を果たすのは誰か
——絶滅危惧種争奪戦!



文庫・ラノベ 読み放題

電子書籍10,000点以上が読める、小説の定額制読み放題サービスです。

ふだん本は紙で読んでいてよく分からぬという方のために3つのおすすめポイントをご紹介します。

対象は10,000冊以上

角川文庫の不朽の名作やここだけの先行連載作品、語学書や実用書など10,000冊以上の作品を読むことができます。

月額836円(税込)!

月額836円(税込)の定額読み放題サービスで気軽に利用することができます。
※Apple決済/Google Play決済の場合は税込840円

いつでもどこでも読める!

スマホやタブレットさえあれば、外出先でも自宅でも場所を気にせず読書が楽しめます。



詳しくはコチラから

<https://bookwalker.jp/ex/feature/subscription/>

- 「文庫・ラノベ 読み放題」は株式会社ブックウォーカーが運営するサービスです。
- サービスの利用にはBOOK☆WALKERへの会員登録(無料)が必要です。
- 諸事情により予告なくサービスの変更・停止をする場合があります。
- 上記条件およびブックウォーカー利用規約をご参照の上、ご利用ください。

BOOK☆WALKER